日本文学科２・３年生対象

平成３０年度開講演習仮シラバス

【伝承文学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる可能性があります。

開講学年	登録番号	応募科目名	担当者	曜日	時限	ページ
3･4	7673	(次年度)伝承文学演習Ⅱ(昼1)	新谷　尚紀	月	4	2
3･4	7675	(次年度)伝承文学演習Ⅱ(共通1)	菊池　健策	火	5	2
3･4	7674	(次年度)伝承文学演習Ⅱ(昼1)	八木橋　伸浩	水	2	3
3･4	7678	(次年度)伝承文学演習Ⅲ(共通1)	高久　舞	月	5	3
3･4	7676	(次年度)伝承文学演習Ⅲ(夜1)	飯倉　義之	火	6	4
3･4	7677	(次年度)伝承文学演習Ⅲ(昼1)	松尾　恒一	木	2	4
3･4	7679	(次年度)伝承文学演習Ⅲ(夜1)	鈴木　明子	金	6	5
3･4	7681	(次年度)伝承文学演習Ⅳ(共通1)	伊藤　慎吾	月	5	5
3･4	7680	(次年度)伝承文学演習Ⅳ(昼1)	小川　直之	火	2	6
3･4	7682	(次年度)伝承文学演習Ⅳ(共通1)	服部　比呂美	金	4	6

【科目名】（次年度）伝承文学演習Ⅱ（昼１）	【開講学年】3-4	【曜日】月 【時限】4
【教員名】新谷　尚紀	【登録番号】7673	
【テーマ】民俗学とその研究法		
（講義内容） 民俗学とは何か、その対象、方法、課題について受講生各自の理解を深める、そのために自ら研究実践を試み、相互の討議によりさらに深化させる、これがこの演習の目的と主たる内容です。まず民俗学の基本を提示するので、受講生はそれに学びながら、自ら研究テーマを設定して研究し発表しお互いにコメントとディスカッションを行ないあいます。可能な限り民俗調査をふまえた研究を期待しています。各自の発表は磨き上げて編集委員が中心になって論文集とします。したがって、卒業論文の作成に役立つことも期待されます。 卒論指導審査対象の学生は、できるだけ履修することとします。		
（評価方法） 成績評価の方法は平常点とします。成績評価の基準は、講義への参加態度と研究への取組みを６０％、レポートを４０％とします。講義への出席と研究発表と討論が最も重要で、他の受講生の発表からの知識の吸収や討論の技術を磨くことも大切です。		

【科目名】伝承文学演習Ⅱ（共通１）	【開講学年】3-4	【曜日】火 【時限】5
【教員名】菊池健策	【登録番号】7675	
【テーマ】祭りの構成と変化		
（演習内容） 本演習では、祭り行事を通して地域社会のあり方や祭祀組織、儀礼等の特色を探ってゆきます。演習では「日本祭礼地図」等をテキストとして使用し、類似する祭り行事の全国的な分布状況や祭り行事の意味について考え発表してもらうこととします。授業では「日本祭礼地図」だけではなく、類似の情報をおさめる「日本民俗地図」等の資料をあわせ見ながら考察を深めてゆきたいと思います。 この演習を通じて祭り行事の現代的な意味を考えるきっかけとなること、さらには実際の祭り行事を見学に出かけてもらえればと思います。		
（評価方法） 発表　　70パーセント　発表内容のほか、レジュメの構成、発表態度も評価する 授業参加の姿勢　30パーセント　授業時間における質疑応答等授業参加の姿勢も評価対象とする		

【科目名】伝承文学演習Ⅱ（昼１）	【開講学年】3-4	【曜日】水 【時限】2
【教員名】八木橋伸浩	【登録番号】7674	
【テーマ】現在学としての民俗学の実践的演習		

（演習内容）

ことば・行為・感覚・形象によって超世代的に伝達・継承されてきた様々な民間伝承を素材に、日本の民俗文化の本質を把握し理解するため、受講生は各自の問題意識に沿って自らが設定した研究テーマについて資料収集・調査研究を行ない、その分析内容や結果について発表・討議を行なう。単に事典類や概説書などによる概要説明では本演習の要件は満たさない。原則として前期は文献調査を中心とした発表を行ない、後期はフィールド調査を踏まえた分析を加味して研究を深化させていく。

研究テーマは限定しないので、自身が関心を持つ素材をとおして民俗研究の方法を実践的に学びながら、現在学としての可能性に迫っていってほしい。卒業論文の作成と関わらせての受講も大いに歓迎する。

※近年、受講生が研究テーマとした素材の例：人身御供、聖地巡礼、妖怪、鬼、オシラ様、狼、稲荷、博多祇園山笠、剣舞、イタコ、能、コトヨウカ、盆、ダルマ供養、語り部、時間、闇、異類婚姻譚、おわら風の盆、七夕、太鼓、神輿、山車、獅子舞、富士塚、橋、鳶、神酒口、握り飯、仙台四郎、シーサー……etc.

（評価方法）

前期・後期の各発表内容（75％）、質疑応答など授業への参加度（15％）、平常点（10％）を総合的に判断し、平常点で評価を行なう。特に発表をめぐる討議へ積極的に参加しているか否かを重視する。

【科目名】伝承文学演習Ⅲ（共通１）	【開講学年】3-4	【曜日】月 【時限】5
【教員名】高久　舞	【登録番号】7678	
【テーマ】民俗芸能研究の方法		

（演習内容）

本演習では、比較研究を用いて民俗芸能研究の方法を学ぶ。受講者は民俗芸能を一つ決め、前期では各都道府県教育委員会の「民俗芸能緊急調査」の報告書（『民俗芸能調査報告書集成』など）を用いて同様の民俗芸能を３地域以上選び比較研究をして発表する。後期では、前期で決めた民俗芸能を『庶民文化集成』『古事類苑』などを用いて歴史的変遷を中心に発表する。

学年末には、発表をもとにしたリポートを提出する。

（評価方法）

発表および発表を元にしたリポート　70％（レジュメ作成、学年末レポート）

授業への取組み　30％（質疑応答、討議への参加姿勢）

【科目名】伝承文学演習Ⅲ（夜１）	【開講学年】3-4	【曜日】火 【時限】6
【教員名】飯倉　義之	【登録番号】7676	
【テーマ】現代の伝承･都市民俗を調査･研究する		

（講義内容）

伝承文学や民俗学は遠い過去の生活の中に存在するものと思われがちですが、しかし「民俗」や「伝承文学」は、いま・ここを生きるわたしたちの生活の中にも見出すことができるものです。いま・ここにおける民俗・伝承文学を発見し、考察するための調査法・研究方法を論文講読と演習発表を通して学びます。登録は卒業論文履修者であることを前提とします。

（評価方法）

授業時発表（40%）発表内容のほか、レジュメや発表の構成も評価します。

レポート（40%）　授業時の発表を元にしたレポートを提出してもらいます。

受講姿勢（20%）　コメントペーパーに、発表への感想・質問を記入してもらいます。

【科目名】伝承文学演習Ⅲ（昼１）	【開講学年】3-4	【曜日】木 【時限】2
【教員名】松尾 恒一	【登録番号】7677	
【テーマ】祭礼・芸能文化、民間信仰・民俗宗教の調査と研究法		

（演習内容）

わが国の祭礼・芸能文化、及び、これらと関連の深い民俗宗教、信仰を考究するための調査法を学ぶ。

前者については、夏の祭礼の典型ともなった京都祇園祭、御霊信仰を出発点として、各地の都市祭礼を扱い、祭りと風流、熱狂、暴力といった側面について考える。あわせて、念仏踊り・風流踊りから、かぶき踊り・盆踊りへの分化と諸地域の民俗事例について考察する。

後者については、イタコ・山伏・民間陰陽師・ユタ等、民間の宗教・芸能と、その担い手となった人々の生活や社会的な側面について考える。芸能や祭儀・呪術の習得のための修行や、差別・被差別や、漂泊といった側面について注目してゆくことになる。関連の民俗として、民間に伝承される冬から春の間の諸地域の神楽についても注目するが、古代における鎮魂呪術としての神楽をも考慮しつつ、地域によっては、病人祈祷や、狩猟における動物霊の鎮魂等の祭儀へと神楽が展開していったこと、その伝承を考えてゆきたい。

前期は、主として先行研究について、論述の根拠となる資料や、調査の特質について考えてゆく。

後期は、実際のフィールド調査に基づいての、現在の伝承の実態と特質を考察する。

伝承を考える上で、

・人（伝承者や伝承組織、生業や生活）

・時間（行事や祭儀の内容、準備から終了までの進行）

・空間（祭儀の空間・地域、自然環境）

を文字や図解・画像・映像を用いて記録し、明らかにすることが基本となるが、そのほか、祭礼・芸能に特有な、音楽や身体所作、仮面・装束、楽器等のモノ資料に注目もする必要もある。さらに、その歴史的変化、変容を解明し、理解するための文献・絵画資料を読み解くことも必要となってくる。

（評価方法）

口頭発表 60%(事前指導 20%+当日発表 40%)＋平常点(授業時課題等)40%＋α（自主フィールドワークレポート等）により評価する。発表のためには、早め（最低でも３週間以上前から）の準備が望ましい。

特に、後期の発表者は、夏季休暇中以降のフィールドワークに基づく報告と発表となる。自主的なフィールドワークレポートにも期待し、評価に加える。

【科目名】伝承文学演習Ⅲ（夜１）	【開講学年】3-4	【曜日】金 【時限】6
【教員名】鈴木明子	【登録番号】7679	
【テーマ】絵図資料に見る芸能と芸能伝承		
（演習内容）近世の絵図資料には、多くの芸能が描かれている。描かれた芸能の中には、現代の民俗芸能や行事にその痕跡をとどめるものもある。 前期は、絵図に描かれている芸能から一つ選択し、資料を集めて、芸能の特徴について考察し、発表してもらう。後期は、前期で発表した絵図に見られる芸能が、民俗芸能や行事などの中に痕跡をとどめている事例を渉猟し、発表してもらう。今年度も引き続き 基礎的な絵図資料として『人倫訓蒙図彙』巻七「勧進餬部」を用いる予定である。		
（評価方法）理由なく三分の一以上欠席した場合は単位を認めない。 発表内容と、前後期の発表をあわせて作成したレポートで評価する。		

【科目名】伝承文学演習Ⅳ（共通１）	【開講学年】3-4	【曜日】月 【時限】5
【教員名】伊藤慎吾	【登録番号】7681	
【テーマ】伝説と地域社会		
（演習内容） 伝説は、特定の地域の歴史や社会、信仰などと密接に関わりながら伝承されてきた。今日は観光との関わりから、地域振興のコンテンツとしての価値が付加されるケースも少なくない。当演習では、各自が特定の地域に伝承されてきた伝説について、調査・考察して口頭報告を行ってもらう。 調査は現地踏査・文献収集を踏まえた基礎データの提示、考察は本テーマに関連付けられる範囲で自由に課題を設定してよい。例）在地伝承…「千葉県我孫子市の平将門伝説」、寺社縁起…「埼玉県上尾市馬蹄寺の化馬譚」、現代社会…「愛媛県宇和島市の牛鬼伝説とゆるキャラ〈もーに〉」 伝説の調査・分析を通して民俗を扱う方法を身に着け、また考察を通して地域社会における伝説の意義や現代社会との関わりを考える機会にしてもらいたい。		
（評価方法） 発表内容、議論参加の積極さ、学期末（前期・後期２回）提出の発表要旨を総合して評価する。		

【科目名】伝承文学演習Ⅳ（昼１）	【開講学年】3-4	【曜日】火 【時限】2
【教員名】小川直之	【登録番号】7680	
【テーマ】民俗研究の方法―比較研究法を修得する―		
（講義内容） 近世・近代の資料を用いて、民俗の比較研究の方法を修得することを目的とする。この方法で卒業論文の作成もできるようにしたい。何を発表課題とするかは、受講者が決めるが、用いる資料は、判りやすいことを第一に考え、文化年間に屋代弘賢らによって出された「諸国風俗問状」の答を用い、この中から課題を決めて発表し、意見交換を行う。後期は、前期の発表をもとに、たとえば『日本民俗地図』などを使って比較研究を深める。原資料を用いての比較研究なので、きちんと取り組めば発表者のオリジナルな意見が見いだせるようになる。		
（評価方法） 前期１回、後期１回の発表と学年末のリポート提出による。研究への取り組みを踏まえた研究発表の内容４０％、リポート３０％、授業への取り組み３０％で評価する		

【科目名】伝承文学演習Ⅳ（共通１）	【開講学年】3-4	【曜日】金 【時限】4
【教員名】服部比呂美	【登録番号】7682	
【テーマ】民俗資料の比較研究方法を習得する		
（演習内容） 民俗学の研究方法として、まずフィールドワークによる現状把握があるが、民俗の歴史的変遷を検証するため、文字化された資料の比較研究を行う必要がある。前期の演習では、「日本庶民生活史料集成」を活用し、受講者が決めたテーマで内容を抽出し、比較研究を行い発表する。 後期の演習では、受講者が全国各地に見られる子どもが関わる民俗行事から１つ選び、周辺地域との比較研究を行って発表する。 なお、卒業論文履修者には本演習を選択することを奨める。 なお、民俗学の基礎的な力を身につけるため、柳田国男『子ども風土記』、『明治大正史世相篇』などを講読する機会を授業時に設ける。		
（評価方法） 前・後期に発表を行った発表内容と、そのどちらかを選んでまとめたレポートを提出し、両者を合わせて評価する。		